

(件名) (仮称) 日置市および鹿児島市における風力発電事業に関する陳情書

(陳情の要旨)

私共の町で、発電出力3万kW、4,300kWの発電機9基(1基の高さ154m、ローター直径120m)の風力発電事業が八重山山系の尾根に計画され、地元住民には心配や懸念も多く、事業者日本風力エネルギーへの不信もぬぐえません。

法定義務の環境影響評価も、3段階目の準備書最終局面です。知事のご意見に私どもの願いも反映頂きたく、以下陳情いたします。

1. 災害への不安について

八重山とその周辺の山の尾根に風力発電機と新たな管理道路を作ることにより、大きく山を削られます。

計画地域の1km圏内では30軒以上もの民家が存在しており、特に八重山の南側は、大雨の度に鉄砲水や土砂崩れがおき、住民は避難しています。

昨年は最大降雨量が110.5mm/時という既に想定外のことが起きています。

ところが、事業者の最大降雨量の想定では、98mm/時としており災害リスクがあります。

雷の被害もこの地域では、頻繁に体験されており、急傾斜の八重山と、小さな盆地の梨木野地域の建設には、大きな不安を抱えております。風力発電機の雷の被害は全国各地で起きており、杭等を伝ってくる振動や音が恐ろしく地響きがするという長島のお宅での生の声もお聞きしました。

2. 事業者について

八重山の事業計画は2年半前に配慮書を提出、昨年7月には本岳及び里岳自治会の所有地に風車を建て、各自治会に地代をおさめると、役員のみ知らされ、

私ども発電機直近に住む住民が計画を知ったのは、昨年12月、新聞のチラシでした。それまで一切説明されていません。

事業者はアセス調査で発電機周辺の住居をポイントしながら、お知らせひとつ配布せず、周知を怠り開発事業者の姿勢が問われます。説明は不十分、住民勉強会も開けず、先日は借地に関する同意を求め、住民が戸惑うなか同意という結果になりました。

事業者は風車建設計画の公開前から、地域にいろんな形で入り込み地域貢献活動を実施。私どもも様々な疑問、不安を問いましたが、多くは「評価書でお示しします」とゼロ回答。個利個略の手法は倫理性が問われます。

日本風力エネルギー(株)は、代表者はスペイン人。ヴィーナエナジーのグルー

プ会社で、拠点はシンガポール。ヴィーナエナジーの親会社はグローバル・インストラクチャー・パートナーズ（G. I. P）は、アメリカの投資会社で受託資産残高8.2兆円と世界最大級の企業です。企業連合には、カナダの年金基金運業者、中国国営の中国投資も参加しています。「ヴィーナエナジー」の前身「エクイスエナジー」は、「G. I. P」を中核とする企業連合によって買収され、和歌山では事業計画途中の買収に地元は混乱しました。

ヴィーナエナジーは、日本各地に特別目的会社を設立、代表社員として日本風力エネルギー(株)を据え、経済産業省の設備IDを取得、合同会社などに名前を変えて日本各地に拠点を作っています。アセス対象の1万kWの事業を、複数の会社名で分割事業化したアセス逃れもあります。採算が合わなければ撤退し日本法人と切り離すことも容易です。途中撤退の場合、残された風力発電機は、自治会もしくは、市、県民の税金での処分になりかねません。管理者がいなくなった後、責任の所在が争われます。

以上の意見を踏まえて、準備書への知事意見に、下記の内容を反映頂きたく陳情いたします。

#### 記

1. 沈砂地や風力発電機建設は、土砂災害の恐れがある人家から十分な距離をとるようご意見をお願いします。
2. 風力発電機建設は、雷被害が及ばぬよう人家から十分な距離をとるようご意見をお願いします。
3. 風力発電機事業による土地改変で、雨水災害が起きぬようご指導ご監督のご意見をお願いします。
4. 沈砂地排水口の排水量予測は降雨条件98.0mm/hですが、実際の降雨量110.5mm/hで再計算し、より安全な沈砂地となるようご意見をお願いします。
5. 事業者は、住民の質問、疑問を先送りせず、真摯に回答、理解に向けた説明を尽くすようご意見をお願いします。